

新基地建設反対名護共同センター ニュース

不条理な司法での闘いも勝つまであきらめない



四月二十二日(土)琉球新報ホールで、辺野古訴訟支援研究会とオール沖縄会議の共催で、「辺野古裁判と誇りある沖縄の自治―裁判の今とこれから―」のテーマでシンポジウムが開かれました。司法の専門家達による辺野古裁判の問題点が網羅され、最高裁まで闘う熱い決意を固められました。分かりやすい具体例として「軟弱地盤対策の不備」「耐震設計が余りにずさん」「『空港基準』に沿ってレベル2地震動を想定するべき」と立石(新潟大学名誉教授)氏は指摘し、辺野古新基地は、空港土木施設の「空港施設設計要項」ではなく「港湾基準」で設計されているとのことでした。最後に玉城デニー知事がその司法の不条理はこの国の歪みであり正していかなければならない。勝つことはあきらめないことですと力強く県民に訴えると大きな拍手が起こりました。

沖縄市池原に自衛隊補給拠点(ミサイル基地)建設予定地 ― 地元市民らが現地調査

安保三文書の具体化である陸自射撃訓練場への補給拠点(ミサイル基地)建設が沖縄市池原で進められている。

沖縄市長は、この建設を「容認」する姿勢であり、沖縄市や隣接のうるま市が戦場になる不安が広がっている。うるま市は、勝連へのミサイル基地配備の問題もあり、さらに深刻である。

その場所を現地調査・視察する取り組みが、四月十七日に行われ、関係する沖縄市、うるま市等の市民、島袋恵祐県議ら20数名が参加した。

陸自射撃訓練場は、沖縄市池原にあるが、すぐ隣はうるま市であり、周辺は米軍基地(知花弾薬庫、東恩納弾薬庫)に囲まれている。自然林が広がり、小さな道も入り組んでおり、現地に行くのは困難である。

射撃場入口近くまで行くルートは、①軍道・楚南道(うるま市山城から入る)、②米軍泡瀬ゴルフ場の移転先(太陽ゴルフ場)につながる軍道があるが、いずれも米軍基地のゲートに阻まれて中までは入れない。

当日は、池原秀明氏(元・沖縄市議)、伊波宏俊氏(うるま市)の案内で、上記二つのルートの米軍基地ゲート前まで行き、周辺の状況、米軍弾薬庫の状況、戦後米軍弾薬庫に接収された楚南集落の返還予定地の問題、池原弾薬庫(ミサイル基地)の問題点などを学習した。今後の建設反対の取り組みの為の有意義な現地調査であった。



沖縄市池原米軍基地ゲート前

追悼・早坂義郎さん

●丁寧で正確な辺野古レポートを何時も読ませて頂いておりました。残念です。ご冥福をお祈り申し上げます。(東京都)

●沖縄に行くたびに連絡を取らせてもらっていましたが、残念です。ここ三年、コロナのために沖縄連帯ツアーに取り組めていませんが、また再開させていきたいと考えています。早坂さんにお会いできないのは寂しい限りです。早坂さんのご冥福を祈りつつ…。(和歌山県)

憲法共同センターが高校生と平和への対話

4月14日(金)に憲法共同センターは首里高校と首里東高校前で憲法を巡っての高校生との対話行動を行いました。首里東高校前では3人が参加。配ったチラシは約70枚。4時から4時30分までの短い時間帯でしたがよく受け取ってくれました。今の沖縄のことを聞くと真剣に「怖い状況ですね」「沖縄戦のことは、自分の祖父母は自分が生まれる前になくなっているの直接聞いたことはないが、ひめゆり平和祈念館へ遠足で行ったり、授業で先生から聞いたりしている」等と答えてくれました。高校生も今の沖縄の状況を心配していることがうかがえました。

